

A 達成できている B ほぼ達成できている C 改善が必要

評価内容	園評価	
<p>保育理念【共に育ち合う】 のびのび〔健康〕 安心してのびのびと過ごす いきいき〔表現〕 自分の思いをいきいきと表現できる ありがとう〔感謝〕 ありがとうと言われる経験をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コードモンという ICT システムを 2024 年度より取り入れた。欠席連絡等、円滑に行えるようになったと同時に、職員が電話連絡時に園児から目を離す事を防ぐ事にも繋がった。2025年度より、連絡帳全てをコードモンに変換していく。手書きではなくとも、保育士の思いをしっかりと伝えていきたい ・保護者との対話を大切に、全ての職員と保護者が関わりをもてるよう配置を工夫した。 保護者には、全ての職員を知っていただくと共に、各保育士の目から見るお子様の様子をお伝えする事が出来たと感じる。 ・保育園とご家庭との連携が、園児の成長に繋がっている。トイレトレーニング、食事面、生活面、情緒面等、保育園での様子を共有し、ご家庭でもたくさんのご協力をいただいた。園児はもちろん、保育士、保護者が保育理念の通り【共に育ち合う】事が出来たと実感した。 	A
<p>子どもの発達、保育、教育の内容について</p>	<p>園児の主体性を伸ばす為にはどうすればよいか。一年を通じて 悩み考えてきた年であった。今まで自分たちが正しいと思ってきた事を、もう一度原点に戻って考えるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片付け・着替え・散歩の準備・トイトレなどは、保育士に促される事が多かった為、イヤイヤ期も重なり、やらされているという意識が反抗したい気持ちに繋がっていたと思う。 ・子どもたちが、給食・おやつ・散歩・クラス遊び等次の活動への期待を持ち、その為にはどうすればよいかを考える保育へ、保育士の意識を転換した。 ・子どもたちのタイミングに任せ、食事の場所の選択や活動への参加の自由等を取り入れた。 ・自由遊びの環境設定においても、子どもたちがやりたい事を選択出来るよう、空間やおもちゃの配置を工夫した。それにより、今まで以上に集中したり、遊び方を工夫する姿が見られた。 ・保育士の言葉の掛け方も、自然と子どもたちの気持ちに寄り添えるものとなった。 ・安全な保育を行う為には、集団を意識したり、ルールを守る必要がある場面もある。バランスが取れた保育を行えるよう、これからも全職員で考えていきたい。 	A

<p>養護に関する内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の夏は猛暑が続き「熱中症アラート」を調べる日々であった。猛暑により、室内で過ごす事が余儀なくされる事が多かった。 ・その分 室内での活動のみで子どもたちのストレスを発散する事が課題となった。特に今年度は男児の人数が多い為か、身体を使う遊を好む子が多かった。 ・自園の保育室は、いろいろな活動が出来るよう、広さを保つよう工夫している。 アスレチックや手作りおもちゃを工夫しながら、新しい刺激を求める子どもたちが楽しめる環境設定を意識した。 ・秋以降には、午後の園外保育も取り入れ、安全を確保しながら、園外活動の充実を図った。 ・遊びの充実は、情緒の安定となり、健康面にも繋がると実感をした。 ・トイレトレーニングや食事への意欲に関しては、園での活動だけでなく、家庭との連携が必要である。保護者が、保育士の報告・提案を真剣に受け止め共に取り組んでくださり、感謝している。 	<p>B</p>
<p>職員の連携 資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はとても活動的な子どもたちが多く、職員の新しいアイデアが活躍をした。 担任がクラスの子どもの個性を理解し、様々な活動を用意すると、子どもたちが生き生きと遊んでいる姿が多く見られた。 ・ただ楽しく過ごす事だけではなく、その遊びによって子どもたちが何を得的のかを考える事が良い活動に繋がったと思う。 ・様々な年齢、個性の職員が集まる中、新しい事を取り入れる事は、難しい事もあると思うが、自分の意見を言いやすい環境作りが、園長をはじめ職員の課題だと感じた。 ・法人で管理者を対象に行われた「接遇」の研修で学んだ事を生かし、今後も働きやすい環境作りに尽力していきたい。 	<p>A</p>
<p>来年度へ向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、担任による個々の把握がしっかりでき縦割り保育の中においても、3つの学年への意識がしっかりと出来た。 来年度は、学年別の把握・個々の把握を担当だけでなく、全職員が出来るよう、体制を工夫していきたい。 ・全職員で全園児を育てる、RiOのチームでの保育をさらに深めていきたい。 	